



58号 令和5年10月27日

<学校教育目標>

自ら伸びる ともに伸びる

# 校長だより

呉市立市阿賀小学校  
安宗 誠



## 悔いのない生き方につなげるために

今朝、10月28日（土）に行われる呉市小学校陸上記録会の激励会を行いました。

代表となった5、6年生が自身の目標をみんなの前で力強く語ってくれました。きっと目標達成を目指して、がんばってくれることでしょう。阿賀っ子の中から将来のオリンピック選手が出てくれたらうれしいですね。

私から子供たちには・・・、パリオリンピック日本代表を決めるマラソン大会に出場した川内優輝選手について、次のような話をしました。

大会はあいにくの大雨。スタートから飛び出したのが、川内優輝選手。一時は後続を40秒も引き離す独走ぶり。この悪コンディションの中、みんな体力を温存し、川内選手を追走する選手は1人もいません。結局、35km付近で川内選手は後続に追いつかれ、4位でゴール。2位までに入れば、マラソン日本代表になれるところでしたが……。レース後の川内選手のコメントは・・・、「今日はもう悔いはないです。自分の力を出し切って結果的には上の3人に負けたので、そこはもうしょうがないと思います。」率直な感想だと私は思いました。

また、川内選手がよりによってスタートからたった1人で集団から飛び出したのは、はたからみれば無茶だったり無謀だったり思えたかもしれません。しかし、当の本人はそうではなかったようです。それも、これまでのマラソン人生を聞けば納得できる部分があります。

実は川内選手はこれが130回目のマラソン挑戦。その回数は、他の一流選手と比べてもけた外れの多さです。その果敢なチャレンジ精神とそこから得られた豊富な経験が自信となって、他の選手が選ばない戦略、さらには「もう悔いはない」と言い切れるまでのパフォーマンスにつながったのだと思います。

「果敢にチャレンジすること」「そこから得られる経験を自信につなげること」。それを拠り所にして「自分の力を出し切ること」。そのことが「悔いのない生き方につながる」と。川内選手の走りから伝わってきたこのような生き方……。阿賀っ子もぜひ！

